

全農杯 全日本卓球選手権大会(ホープス・カブ・バンビの部) 神奈川県予選会の結果について

5月3日(祝)、川崎市多摩スポーツセンターで、神奈川県卓球協会および川崎卓球協会主催による「全農杯 全日本卓球選手権大会(ホープス・カブ・バンビの部)神奈川県予選会」が開催された。ホープスの部(6年生以下)45名、カブの部(4年生以下)24名、バンビの部(2年生以下)24名、計93名の小学生がリーグ戦を行った。



ホープスの部(女子)受賞者



J A全農かながわは、各部男女別の1位から4位入賞の選手24名に「県産米キヌヒカリ 20キロ」「秦野総合工場の国産乾麺詰め合わせ」「ストレート果汁 神奈川県みかんジュース」など各賞品を贈り、健闘をたたえた。本会は、スポーツに励む子供達の健やかな成長を国産農畜産物で応援している。

同予選会での上位選手らは、2016年7月29(金)～31日(日)にかけて神戸総合運動公園内体育館(グリーンアリーナ神戸)で開催される本大会に出場し、全国小学生の部の頂点を目指す。



カブの部(男子)受賞者



カブの部(女子)受賞者

神奈川県卓球協会の関係者によれば、大会に出場するために必要な協会登録者数は増加しており、また神奈川県大会から全国大会へ進める出場枠も一人増えるなど、県内の卓球人気が増している。放課後、ほぼ毎日卓球クラブに通い、数時間の練習をこなす小学生選手達に「好きな卓球選手」を聞くと、男子は水谷隼(みずたにじゅん)選手、女子は石川佳純選手との答えが多数を占めた。また、神奈川県岸田クラブ(藤沢市)出身で、現在JOCエリートアカデミーに所属しオリンピックを視野に英才教育を受ける長崎美柚選手も、ホープス、カブ、バンビの部を通して同大会の入賞常連だった事から、子供達

の目標になっている。

リーグ戦方式の大会で勝ち進んだ場合、一日に4、5試合を戦うことも。「集中力を高めるためには、的確な指導が大切。平日は放課後4～5時間、土日も練習に励む中で、集中力を切らさず試合を連続して戦える持続力が身についていく」と協会関係者は話している。



バンビの部（男子）受賞者



バンビの部（女子）受賞者